

ひもときワークシート

Step 1

あなたの視点で、この事例の課題を確認していきましょう。

A 課題の整理 あなた（援助者）が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っていること、負担に感じていることを具体的に書いてください。

- ・大きな声、奇声をあげて騒ぐ。
- ・たたく、つねる、唾を吐くなどの行動がある。

【質問】

このような様子が見られるときに何かきっかけと思われるような事柄や状況がAさんや周囲にありましたか？

【回答】

トイレ時の身体介護、入浴時の着脱介助時に身体に触られたとき。
通りがかりに声掛けしたとき。

【質問】

このようなときにスタッフはどのようにかかわりを持っていますか？

【回答】

- ・Aさんが小声になるまで待つ。
- ・再度、どのような援助をするか説明する。
- ・Aさんがどのようにしたいか確認する。
- ・通りがかったときには少し距離をおく。

B 課題の整理 あなたが考える対応方法

あなたは、本人に「どんな姿」や「状態」になってほしいのですか。

- ・大声、奇声をあげずに穏やかに過ごしてほしい。

【質問】

Aさんにとっての「穏やかに過ごす」とは、具体的にどのような様子をイメージしますか？

【回答】

- ・笑顔で話ができる。
- ・大声を出さずに排泄・入浴ができる。

そのために、当面どのようなことに取り組んでいこうと考えていますか？
あるいは、取り組んでいますか？

・Aさんに何をしたいのか、どんなことをしてほしいのか確認しつつ行っている。

【質問】

Aさんに確認をするということに取り組もうと思ったのは、何かきっかけとなる話し合いや具体的な事柄、Aさんからの言葉などがあったからでしょうか？

【回答】

・食事中・食後にかけて、胸の痛みを訴え、見守りするも大きな声を出したり、落ち着きなくまわりを見たりしていた。ベッドでの休養を勧めると「歩いて行く。」と言い3m程歩行、「歩けば疲れ。」と言い車椅子を要求。「無理なく歩けると良いですね。」と声掛け、その後落ち着きレクリエーションに参加できた。

・ほかの利用者から「大きい声を出している。」「うるさいなあ。」の声があった。
・Aさんが「自分でできる。世話やくな。」と言ったため確認しつつ行うこととした。

Step 2

根本的な「課題解決」に近づくように、事実や情報を整理してみましよう。

また、可能であれば、ここからのワークは、あなた1人だけでなく、同僚や多職種の人などと複数の人と一緒に考えてみましよう。

C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

この事例であなたが困っている場面(Aに記載した内容)で、本人が口にしていた言葉、行動、表情やしぐさ等をありのままに書いてください。

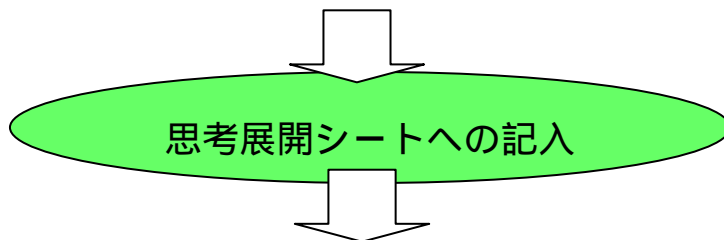
- ・「知っています。」「自分でやれます。」「触らないでください。」と言いつつたたく、つねる、唾を吐く。
- ・知らないふりをする。そっぽを向く。
- ・職員が見えないと呼ぶ。
- ・食べ物、薬を吐き出す。

【質問】

このような様子のときのAさんの気持ちはどのようなものだと思いますか？また、スタッフはこのような様子を見てどのように感じていますか？

【回答】

- ・自分でできるのだから手を出さないでほしい。
- ・できない自分がはがゆい。
- ・一人では心細い。寂しい。見える所にいてほしい。



「C.本人の状態や状況」で書き出した言葉、行動、表情、しぐさ等の意味を理解するために、別紙の思考展開シートを使って、本人をとりまく環境や心身の状態について整理してみましょう。

D 課題の背景や原因を整理してみよう

展開シートに記入した内容を踏まえて、本人にとっての課題の背景や原因と考えられる事がらを書いてください。

- ・触られることを嫌う。
- ・職員が交代して、同じことを問い掛けている。
- ・自分のことは自分でやりたいができない。
- ・粉薬がむせる。

【質問】

思考展開シートを記入して、Aさんの気持ちをさらに深く考えたり、感じたりしたことで、スタッフのAさんへのかかわり方などに変化が見られたり、新たに気がついたことなどはありませんか？

【回答】

- ・Aさんのペースに合わせた声の大きさ、行動の仕方が見られた。
- ・Aさんの話をしっかりと聞いて次の行動に移っていた。

Step 3

本人の視点で課題の解決がなされていくように、あなた自身の思考を展開してみましょう

E 事例に書いた課題を本人の立場から考えてみよう

「D.課題の背景や原因の整理」を踏まえて、あなたが困っている場面で、本人が困って(悩んで)いることや求めていることは、どのようなことだと思いますか？

- ・触ってほしくない。
- ・急がせないでほしい。
- ・自分のことは自分でやりたい。
- ・歩きたいのに歩けない。
- ・薬は甘く小さいのが良い。
- ・お風呂は嫌い。
- ・一人にしないでほしい。

【質問】

Aさんの立場に立って考えたときに、Aさんはどうしてそのように思っているのだろうか？など、その理由や原因について分かってきたことがありましたか？

【回答】

- ・Aさんができることまで援助しているのではないか。
- ・知らない所に連れてこられ、声掛けられ、見つめられ、身体を触られ、理由が分からないうちにいろいろなことをされていると思っているのではないか。

F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて気づいた新たなアイデアを、いくつでも書き出してみよう。

- ・どんな言葉や援助をしたときに、BPSD(行動・心理症状)が見られなかったか、職員で出し合ってみる。
- ・痛みのあるとき、痛みを軽減できるように医療関係者に相談できるように家族との連携を取る。

【質問】

スタッフ間で様子について出し合うことが大切だと思い、取り組もうとしているのにはどのような理由があるのでしょうか？

【回答】

- ・Aさんへの心配り(優しさ、いたわり)。
- ・大声を出し、ほかの利用者の方に心配・迷惑をかけているため。
- ・スタッフの対応方法によって、大声・奇声の出し方が違っていたため。

【質問】

医療機関や家族との連携を強化することでどのようなことに変化が見られれば良いと思いますか。また、そのときに気をつけなければいけないことなどはありますか？

【回答】

- ・Aさんの痛みの軽減。
- ・痛みの原因の把握。

【全体的な質問】

今回の取り組みで、スタッフが改めて気がついたことや確認したことなどについて聞かせてください。

【回答】

・Aさんのことを分かっていた(ほかの利用者も)聞く・見る・伝えるなど必要なことは行っていたが、ひもときシートで振り返ることができた。今まで以上に内容が濃い介助につなげたい。

- ・利用者は、日によっても、体調によっても変化がある。その時々ニーズに対応できるように、他職種・スタッフ間で情報を共有し連携を取っていきたい。
- ・Aさんの大声・奇声も時々は見られるも、落ちついて笑顔で過ごすことが多くなった。

(助言者の考察)

入浴介助や排せつ介助などのかかわりを持つときに、大声やたたく、つねるなどのBPSDが出現しているAさんについて、日ごろのかかわりなどを振り返り見直した事例でした。

振り返る視点として、Aさんに対して説明をしっかりと「伝える」、気持ちを「聴く」、すぐに援助者側が反応するのではなく「待つ」など、さまざまな視点を持ってかかわりを見直しています。この取り組みをしたことで、「Aさん自身ができることまで援助をしていたのではないか」という大切なことに気づくと共に、「寂しさや心細さなどが起因となっているのでは」ということにも、Aさん自身の言葉や様子から導き出しています。

そして、今後は援助者側のペースで物事を進めがちになってしまうことをいつも意識しながら、チーム内で共有化を図るためにその都度話し合いを持っていくというひとつの方針が出ました。

この事例の取り組みのように、援助者側の困り事で終わらせずに一度立ち止まってみることで、「伝える」「聴く」「待つ」という認知症介護での重要な視点を振り返ることができ、これは今後、別の状況が起きたとしても繰り返し考えるためのきっかけとなる視点だと思われます。

また、私たち援助者は、その人のためと思いかかわりを持っていることでも、思考展開シートなどを記入し多方向から踏み込んで考えることで、別の視点に気づくことができ、全く違うかかわり方が見えてくることも多いということも覚えておかなければいけません。

今後は、医療機関や家族も含めて大きな連携を取りながら身体面、心理面からのアプローチがなされていくのだと思いますので、他職種それぞれの立場から情報や意見交換を行い、Aさんへの優しさやいたわりを大切にしたかかわりを続けてほしいと思います。